



庭の草木が季節の移ろいを知らせてくれます。今、境内では紫陽花がしっとりと咲いています。やがて夏椿も咲き始めることとなり、緑いっぱい、初夏がやってきました。

「それ秋も去り春も去りて、年月をおくること、昨日もすぎ今日もすぐ。～ただいたずらにあかし、いたずらにくらして、老いのしらがとなりはてぬる身のありさまこそかなしけれ」。(お文 四帖 第五通)と蓮如上人が述懐されておりますが、蓮如上人70代になっての心境をのべられたものです。いつの間にか年老いてしまったわが身を振り返えられながら、「いまにおいては、生死出離の一道ならでは、ねがうかたとはひとつもなく、またふたつもなし」、とお念仏ひとつをよるこんで生きていける道を選ばれたのでした。そして詠歌には「法(のり)をきく みちにこころの さだまれば 南無阿弥陀仏と となえこそすれ」とも詠まれたのでした。

それは上人の人間として生まれてきて本当によかったという喜びの声でもあります。人生の方向が定まることによって、いついのちが終わっても阿弥陀如来の世界に定まるという喜びです。もし長生きすればしたで、感謝の思いで生きればよいのです。どんな生活もそのまま素晴らしい「平生業成」の世界で生きることになるのです。そこは儲かる、損する、勝った、負けたの世界を超えて、人間として生まれてきて本当のよかったという永遠の真実に出会えた世界で生きるということなのです。その世界に出会っていくことこそが、人生の目的でもあるのです。

## 仏花は造花ではいけませんか？

そんな質問が時々ありますが、なかなか難しい質問です。

造花が良いとか悪いとかという問題の前になんかという思いで造花を使おうと思つのが問題だと思つのです。

本来仏花はお仏飯やお灯明と同じように阿弥陀如来の世界 お浄

土を表すお荘厳 おしよごごのしよす。いのちを輝かせて咲いている花の姿は、**無常なるいのちの表現でもあると言えぬのです。**

すぐ枯れてしまつてその都度水や花を換えるのは面倒くさいから、忙しいからなどと、様々に理由はあるでしょうが、朝夕のお勤めで出会うことができる仏さまからのおはたらきを、仏花からもいただいたいと思います。

造花を絶対に使つてはいけないとは言いませんが、お内仏の意味からすれば適当ではないと言えます。造花も物としてのいのちはあるのでしょうが、そののちから「おはたらき」をいただつていくのは難しいことでしょう。

花を枯れたままにしておくよりも少しはましでしょう、と言われることもあるのですが、その人の根っこにある思いの部分では大なり小なりといったところだと考えられます。

確かに花の少ない時期があり、購入しなければならぬ時もある費用も掛かるのですが、たとえ一輪でも生花をおかざり「したいものです。その思いこそが尊いことだと思えるのです。」

あるご門徒さんのお宅では、朝夕に食事の前のお勤めと、生花は切らしたことがないとおっしゃた。主自身も気が付けば自ら換えらるるというしよすですが、奥様にも強いられてるという。もし怠るようなことがあるとんでもなく機嫌が悪くなるのだともおっしゃる。徹底されたその在り方に少々驚きもした。主は光受寺の総代を務められたこともあり、何となく頷かされるお話としてお聞きするしよす。が、できたのでした。



シャクヤクの花

少し早いのですが、

### 秋の永代経の

「案内」とお知らせです。



九月二十一日 秋分の日(日)に例年のごとく永代経をお勤めいたします。

午前午後と勤まりますが、午後の法話に代わって落語「を聞いていただく」になります。

午後は一時よりお勤め。  
一時半より落語。

### 落語家の紹介

笑福亭智丸 ひよひぶくいちまる

本名 足田 龍乃介 一九八八年生まれ  
大阪芸大大学院卒 落語研究会二七代会長と務める。

笑福亭仁鶴 一門の伝統を受け継いだ古典落語を基盤に新作落語の発想を盛り込んだ新作派の師匠仁智の弟子(二〇一三年四月一日入門)となる。現在上方落語協会会員  
また文学にも造詣が深く、詩集の出版歴もあり、中原中也、萩原朔太郎とおるもつ賞などいくつもの文学賞の候補になるなど、文芸派の一面を持つ。  
みんなで聞きに来てね。

### 七月の学習会

九日(第一王曜)

法話(寺族)

休憩

法話(天才続)

お助けあれ!

新聞原稿募集中!



五月二十六日

撮影

紫陽花が咲いています。



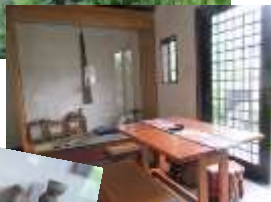
七変化

### 光受寺にお休み処?

光受寺に気軽に足を運んでいただきたいとの、住職の願いの第一歩として始めたことですが、住職の願いの第一歩として始めたことですが、これも気まぐれなことなのですが、しばらくの間は毎週金曜日の午後一時から4時までぐらいを予定いたしております。門徒の皆様との交流の場になれば、とてもうれしいことだと思います。  
場所は光受寺 聴風庵(ミニギャラリー)です。この日は常時開放しておきます。また住職も用事のない限り在宅いたしておりますのでお気軽にご利用ください。

次のようなものを用意しております。

- お茶(コーヒー)時々お茶菓子
- 気軽に読める仏教関係の本および本山関係情報誌。
- 同朋新聞および光受寺通信など。
- 季節の書画等展示、などなど。



四季の作品が展示してあります。

少々狭いですが、4~5人は余裕です。

「要望」によつてこの場の活用方法を考えていければと思っております。  
ちょっと返屈したな、と思つたら、何となく人と話してみたいと思つたら、通りすがりにでも、ぜひお立ち寄りを。住職はみなさんに立ち寄りいただけることかうわしくしかたがないのです。何も魂胆はありません。ただお待ちいたしております。



今年には芽の出が悪く、一芽も出ていない木が数本あります。これは今までにない状況です。  
飛龍梅はまずまずですが、庭全体の調和がとれないので残念です。  
理由は全く分かりませんが、枯れてはいないようです。自然の不思議さを感じています。  
来年は寂しい観梅展となるのかな。

